



日本共産党 新宿区議会議員

藤原たけきの

地域通信

2021/12/15号

子育て世帯への
臨時特別給付金は

全て
現金給付で

コロナ対策や保育園運用
改善を、区長に申入れ

12/12 (木) 区長に「新型コロナウイルスから区民の命と暮らしを・営業を守るための申し入れ(その12)」と、「育児休業中の在園期間延長実施に関する要望書」を提出しました。

●クーポンではなく現金で

特に大きな議論を呼び区民な皆さんからも問い合わせの多い「子育て世帯への臨時特別給付金」は、国の方針に従って5万円+クーポン5万円の支給にするのではなく、10万円全てを現金支給すべきと区長に伝えました。

区長からは「現金支給で進める」旨の返答があり、給付側の事務経費の無駄遣いを避け、受け取り側の不便を回避できる方向が明らかになりました。

●検査結果は早く確認したい

感染者減により検査数も減っているにもかかわらず、区のPCR検査結果通知は、陰性の人には1週間近くかかる運用についても改善を求めました。「担当課に指示する」旨の返答で、夕方「改善する」旨報告がありました。

●育児休業中の在園期間延長の早期実施を

都内他区ではすでに実現している2歳までの在園延長制度、共産党区議団の代表質問に対して「早期実現」との答弁があったにもかかわらず、実現が遅れていることを指摘。区長からは「なるべく早くとは言っている」旨返答がありましたが、子ども家庭部長は「検討中」と返答。対応が急がれます。(右記参照)

くらしの相談お気軽に

日本共産党新宿区議団では、弁護士など専門家の皆さんと相談会を行っています。なんでもご相談下さい。秘密厳守。

第4回定例会で次々実現！
区民の声と区議団の質問で区政動く。

●コロナ第6波に備え、一時滞在施設整備へ
オミクロン株による感染拡大が進む中、第6波への備えが重要です。第5波の際には病床不足による自宅療養で区内でも在宅死4名を出してしまいました。

共産党区議団は「臨時医療施設」の設置を要望。区は「一時滞在施設」を現在のPCR検査センターを改修して設置するとし、準備することになりました。

入院が必要な自宅療養者が入院まで一時的に滞在し点滴や吸入などの対応を行う予定です。

●スポーツ施設利用料、障害者は無料に

他区では進んでいることを示し、「パラリンピックが残す財産と言うなら無料化をすすめスポーツ参加を助けるべき」と再三要求してきました。第4回定例会での一般質問でも取り上げた際、区は「来年度から利用料の全額免除を検討中、スポーツ大会でも免除」との答弁。ついに実現です。

●育休中の子が2歳になるまで、上の子ども保育園在園可能に。

育児介護休業法改正により子ども1歳6か月時点で保育園入所できない場合2歳まで育休延長可能となり、上の子の在園期間を2年に延長する区が増えています。区議会で度々質問してきましたが、新宿区でも2歳までの延長が実現することになりました。

日本共産党
新宿区議会議員
藤原たけき
(070-5371-5853)

